

「いかに考えていない人が多いか・・・」悩める上司たちのホンネ！

**“自分に何が求められているか”を意識する  
「当事者意識」が1位に！**

～ 主体的な行動で評価が上がる傾向に ～

ビジネスを模擬体験し、行動を分析する“インバスケ”を日本で唯一、専門に扱う株式会社インバスケ研究（大阪・堺市 代表取締役 鳥原隆志）は、3,500名以上のビジネスパーソンに「部下に伸ばして欲しい能力」を、インバスケで測られる10の能力を基準に調査を実施しました。

当社が実施するセミナーに参加したビジネスパーソン3,551名を対象に、「リーダーズアンケート」を実施しています。このアンケートは各業界でリーダーとして活躍する方々の情報収集ツールや現在の悩みなど、リアルな実情を尋ねた内容で、リーダーたちの行動を知るために実施しています。

今回は、アンケートの中から「部下に一番伸ばしてほしい能力」を調査しました。1位は「当事者意識」、2位は「問題発見力」で、3位は「問題分析力」でした。各能力と全ランキングは、次のような結果となりました。

RANK	能力名	%	能力の詳細
1位	当事者意識	18.1	主体的に自分で意思決定を行い、自分、またはチームに何が求められているかを察知する意識
2位	問題発見力	15.6	目標とのギャップだけではなく、本質的な問題点や組織の課題を形成する能力
3位	問題分析力	15.3	仮説を立て、それを立証・確認するために必要な情報を効果的に収集したり、問題の原因を究明したりする能力

※ランキングの詳細／各能力についての詳細は次ページにて

この結果に対して、「インバスケ思考」の著者・鳥原隆志は、「今回の調査結果は、上司が部下に仕事の与え方が下手であるという結果である。なぜなら、部下が主体的に行動する当事者意識は資質ではなく、上司の仕事の与え方に大きく依存するものだからである。

問題発見力や問題分析力を求める傾向も、裏を返せば、上司が問題発見や分析を自ら行う傾向ともいえるので、今回の結果は上司が部下に主体的に動くような指示の出し方を勉強する必要があると言える。

例えば、部下に完全な答えを返すのではなく、部下に考えさせるように半分しか答えを出さないという手法も取り入れるべきではないだろうか」と述べています。

株式会社インバスケ研究 大阪本社（代表取締役 鳥原 隆志）

〒599-8237 大阪府堺市中区深井水池町 3152 KU深井オフィスビル4階

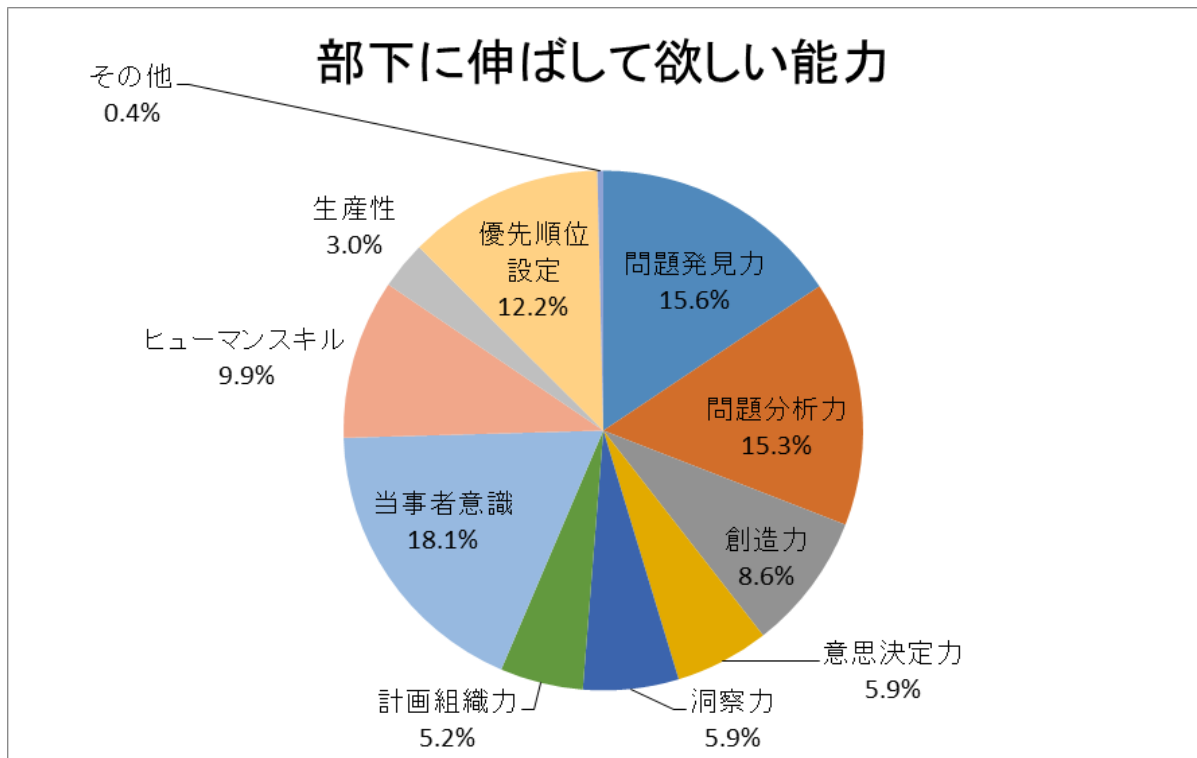
TEL： 072-242-8970 / FAX： 072-242-8960

◇広報担当者 唄(ばい) 麻里絵 [houjin@inbasket.co.jp](mailto:houjin@inbasket.co.jp)

(ご参考)

【各能力の詳細と評価される行動】

RANK	能力名	%	能力の詳細 (上段)	
			評価される行動 (下段)	
1位	当事者意識	18.1	主体的に自分で意思決定を行い、自分、またはチームに何が求められているかを察知する意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人に任せきるだけでなく、自分もチェックするなどの行動をとる</li> <li>・組織の一員として範囲外の業務でも協力している</li> </ul>
2位	問題発見力	15.6	目標とのギャップだけではなく、本質的な問題点や組織の課題を形成する能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後発生するリスクを見つけている</li> <li>・職場のモチベーションが低下していることを把握している</li> </ul>
3位	問題分析力	15.3	仮説を立て、それを立証・確認するために必要な情報を効果的に収集したり、問題の原因を究明したりする能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細を報告させる</li> <li>・質の高い情報を専門部署より収集する</li> </ul>
4位	優先順位設定	12.2	業務の重要度を考慮して、処理すべき案件の順番を考える能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要度・緊急度を考慮したリーダーとしてズレのない、優先順位の高い案件を選んでいる</li> </ul>
5位	ヒューマンスキル	9.9	コミュニケーション能力・感受性・コーチング能力などの人間関係に関する能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部下に感謝の言葉を伝えている</li> <li>・相手への配慮がうかがえる行動をとっている</li> </ul>
6位	創造力	8.6	従来の枠組みを破る考え方や、様々な情報を組み合わせた対策・アイデアなどを出す能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替案を考えて提案する</li> <li>・従来の慣習を取り払い、新たな仕組みを作り出そうとしている</li> </ul>
7位	洞察力	5.9	全体の流れや、他の案件との関連性などを把握し、意思決定を行ったり明確な計画を作成したりする能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体最適を考え行動している</li> <li>・ほかの情報を組み合わせて行動している</li> </ul>
7位	意思決定力	5.9	論理的に意思決定を行い、それを明確に他者に伝える能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠とともに相手に判断を伝えている</li> <li>・上司に自らの考えを表明することができている</li> </ul>
9位	計画組織力	5.2	部下や組織を有効に活用し、効率的・効果的に組織を運用する能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署や上司に協力を依頼している</li> <li>・部下に業務を委譲している</li> </ul>
10位	生産性	3.0	限られた時間の中で、効率的に多くの仕事(案件)を、処理する能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの案件を処理している</li> </ul>



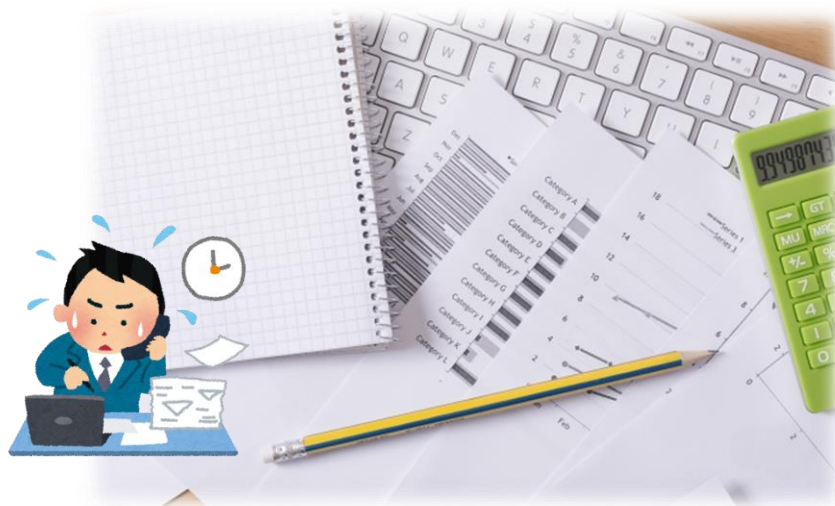
#### 【インバスケツトとは？】

1950年代にアメリカ空軍で導入されたトレーニングツールで、決裁がされていない書類が入った「未処理箱」を意味します。

このシミュレーションでは、あなたがいま置かれている状況、つまり「限られた時間の中で、最大限成果につながる処理を行う」必要があります。

それぞれの処理内容に正解はありませんが、どのようなプロセスを辿り、どのような判断を下したのか、その“行動”があなたの思考であり特性なのです。

実際の研修では、“まったく同じ条件・状況”で処理をした他の受講者と意見交換をすることで、行動の選択肢に気づき、あなたが発揮できていなかった能力を引き出します。従来の“知識詰め込み”型の研修とは異なり、それまでに行われた教育・研修内容を“実践に繋げることができる”と言うのが受講者にも、教育担当者にも人気を博しつつあります。



【 インバスケット研究所 】

◆事業内容

- インバスケット法を用いた個人・法人向け教材開発・販売
- インバスケット法を用いた人材育成、並びに能力開発に関する各種セミナー
- 講習会・研修会の企画・開催、並びに運営・管理
- インバスケット法を用いたヒューマンアセスメントに関する情報、並びにサービスの提供
- マーケティングリサーチ業務、及び経営コンサルタント業務 など

◆主な取引先

株式会社吉野家ホールディングス	グループアカデミー	宮崎県自治研究所
株式会社ノーリツ		茨城県自治研究所
大阪朝日新聞販売協同組合		神戸市役所
医療法人 清和会		三井住友海上プライマリー生命保険株式会社
早稲田大学 エクステンションセンター		株式会社静岡朝日テレビ
株式会社日経 BP 社 (課長塾)		NTT ファイナンス株式会社

≪講演実績≫

(一社) 全国信用金庫協会	学校法人常翔学園	摂南大学
兵庫県職業能力開発協会	日本食研ホールディングス株式会社	
パナソニックグループ労働組合連合会	SMBC コンサルティング株式会社	
中外製薬株式会社 労働組合	京王電鉄バス株式会社	
(一社) 日本フランチャイズチェーン協会	西日本電信電話株式会社	
福井県庁	みずほ総合研究所株式会社	
公立大学法人 熊本県立大学	NEC グループ労働組合連合会	

他

◆沿革

2009年 11月	日本初のインバスケット専門機関として「株式会社インバスケット研究所」設立 本社を大阪府堺市深井沢町に置く
2011年 6月	書籍『究極の判断力を身につける！インバスケット思考』を WAVE 出版より発売
2012年 5月	書籍『究極の判断力を身につける！インバスケット思考』がビジネス書大賞 2012 書店賞を受賞
2013年 4月	東京都港区新橋に「東京オフィス」を開設
2013年 6月	三井住友海上プライマリー生命保険株式会社様と業務提携、共同開発を発表
2013年 12月	大阪府堺市深井水池町に本社を移転
2015年 6月	第1回「判断力検定試験」実施
2016年 5月	東京オフィスを東京本社とし、東京都江東区へ移転

また、弊社代表 鳥原隆志の執筆本は 40 冊以上あり、累計発行部数は 70 万部以上に及ぶ。

